

大学時報

UNIVERSITY CURRENT REVIEW

No.365

2015

11

隔月刊



最先端の医療現場を先取りした施設で、実践力を鍛えます（福岡女学院看護大学）

座談会『第14回学生生活実態調査』から読み解く 現代学生像とこれからの学生支援

小特集 大学における防災訓練

明日への試み 筑紫女学園大学／龍谷大学

わが大学史の一場面 聖カタリナ大学

加盟校の幸福度ランキングアップ 上智大学／南山大学／専修大学

クローズアップ・インタビュー

印象評論家、インプレッショントレーナー® 重太みゆきさん

日本私立大学連盟

Thesaurus Universitatis

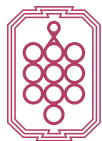


キャンパス全景



祈念モニュメント



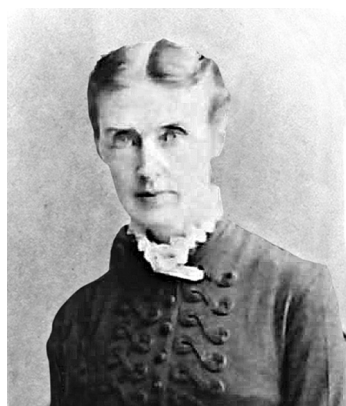


ささえ、育み、未来につなぐ

福岡女学院看護大学

Fukuoka Jo Gakuin Nursing College

学校法人 福岡女学院は130周年を迎えました



▲創立者 ジェニー・ギール女史

2015年、学校法人福岡女学院は創立130周年を迎えました。米国のキリスト教宣教師ジェニー・ギール女史が創立した英和女学校を前身とし、キリスト教に基づいた深い教養を身につけ、広く社会に求められる女性教育の学び舎として、時代とともにある使命を果たしてきました。現在では、幼稚園、中学校・高等学校、大学・短期大学部、大学院を擁する女子教育の総合学園として発展を続けています。

福岡女学院看護大学は、その伝統と実績をふまえ、国立病院機構 福岡東医療センターと連携し、2008年、福岡県古賀市に単科大学として開学しました。2015年3月で4期409人を世に送り出しました。

▼看護大学校舎外観



キリスト教精神に基づいた、 ヒューマンケアリング教育

本学は、キリスト教精神に基づいた、人間の尊重、倫理観を備えたヒューマンケアリング教育をめざしています。幅広い教養とコミュニケーション能力を身につけ、看護学や医学の専門的な知識と技術に研鑽を重ね、問題解決能力、看護実践能力を取得し、医学および看護学の進歩、国民健康の維持増進、さらに地域や国際社会に貢献する看護職者を育成します。



福岡東医療センター ▶

本学は、国立病院機構 福岡東医療センターに隣接する恵まれた学習環境にあり、最先端の医療現場と連携した看護教育を特色としています。現役医師による講義「病態・疾病論Ⅰ～Ⅵ」では、国立病院機構をはじめ、医療の第一線で活躍中の専門医師が講義を行います。

また、福岡都市圏の国立病院機構をはじめ、大学病院や総合病院、

施設などで臨地実習が行われ、充実した教育連携プログラムを展開しています。多様性に富んだ実習で、社会から求められる人間性豊かな看護職者の育成をめざしています。



◀ 病態・疾病論講義風景

国立病院機構
福岡東医療センターに隣接



地域連携協定事業



◀ 古賀市糖尿病予防教室

本学では、福岡県古賀市と連携し、「古賀市連携協定事業活動」の一環として糖尿病予防教室を開催しています。食生活や運動習慣等、日常生活動向と血糖値の関係を自分自身で調べながら、血糖値の現状を自己分析し、糖尿病を予防するための健康管理のあり方を学習することを目的としており、市職員（保健師・管理栄養士・看護師を含む）や健康づくり促進員（ボランティア）、本学の公衆衛生看護学領域教員等で約3ヶ月間、6回にわたって血糖測定器を活用して実施しています。

その他、古賀市との共同開催で、古賀市在住の妊娠22週以降の妊婦さん・古賀市に里帰り出産予定の妊婦さんご家族を対象に、お産に向けての準備や過ごし方（呼吸法・リラックス法）、沐浴体験などを行う「妊娠後期すこやか教室」を実施しています。学生ボランティアも参加し、本学の教育理念であるヒューマンケアリングを学び、実践する大切な時間となっています。



▲▼すこやか教室





▲新棟完成イメージ

本学は、2018年4月に開学10周年を迎えます。この記念すべき年に創立10周年記念事業として新校舎建築に取り組みます。新校舎の概要は、総面積約2,046㎡、鉄筋コンクリート3階建てで、国立病院機構 福岡東医療センターより借用している敷地南東部角に建設され、2015年11月着工、2016年8月末竣工予定です。

近年、実習現場での学生による看護実践が難しくなってきました。看護実践能力を育成するには、できる限り現場に近い環境を作り、課題を学生同士で討議し、安全な環境下で試行と失敗から学ぶシミュレーション教育が効果的であると考えています。

本学では、すでにアクティブラーニングを取り入れています。新棟2・3階に、九州では数少ない看護シミュレーションセンターを設置し、従来の講義・演習型の教育から、学習者主体による課題解決型の教育へと移行しやすい環境を整え、教育方法の更なる充実を図ります。

看護大学10周年に向けて、 新校舎建築が決定

福岡女学院看護大学 〒811-3113 福岡県古賀市千鳥1-1-7
TEL 092-943-4174 FAX 092-940-2341

学校法人 福岡女学院 〒811-1313 福岡市南区臼佐3丁目42-1

- | | |
|--|--|
| ☐ 法人本部事務局 | ☐ 福岡女学院大学・大学院 |
| ☐ 福岡女学院大学短期大学部（英語科） | ☐ 福岡女学院大学生涯学習センター |
| ☐ 福岡女学院大学臨床心理センター | ☐ 福岡女学院高等学校 |
| ☐ 福岡女学院中学校 | ☐ 福岡女学院幼稚園 |
| ☐ 福岡女学院天神サテライト | |

〒810-0001 福岡市中央区天神2-8-38 協和ビル9F

大学時報

No.365

2015.11



意識して生きよう

片野 光男 ●福岡女学院看護大学学長

福岡女学院は創立130周年を迎えました。建学の理念を堅持し社会の要請に応え続けるのは容易いことではありませんでした。可能にしたのは、キリストを見つめてきた教育だと信じています。私は、「高い志を胸に、意識して道の端を颯爽と歩く」学生・教職員が行き交うキャンパスを夢見ています。志とは、空を見上げた時に溢れだす熱き血潮です。私の志を支えるのは、部屋に掲げた「信・望・愛」（寛容）と「義理と人情」（俠気）の看板です。

主体性を育む環境づくりに向けて

廣瀬 良弘 ● 駒澤大学学長

1 はじめに

大学改革が進められる中で、特に私立大学の場合はその独自性が損なわれるのではないかと危惧する声もときに聞かれる。しかし、私は大学の伝統を維持しつつ改革をシステマティックに進めれば、かえってその独自性の輝きを増すことができると考えている。例えば、駒澤大学はグローバル化推進においても仏教系大学の独自性を持って臨みたい。

さて、いま社会は大きく揺れ動いている。グローバル化に伴い、伝統社会は揺らぎ、変化し、経済環境・雇用情勢が厳しさを増して、国際紛争が頻発し、そこには民族間の対立と宗教間の対立が表裏をなしており、多くの国で社会不安が拡大している。わが国でも少子高齢化に伴う活力の低下、経済・社会・

地域の格差が叫ばれている。また、東日本震災・原発事故の傷跡は未だ癒えず、復旧復興事業もなかなか進まない状況にある。さらに、激甚災害もあとを絶たず不安は募るばかりである。

このような中で、現代は「心の時代」と言われ、宗教への関心も高まってきている。また、現在、クルジャパンとして日本文化が世界の注目を集めている。そして、日本文化を代表する能・狂言、茶の湯、石庭、水墨画、書院造りなどは、禅の影響を深く受けて成立してきたことから、禅への関心も深まってきた。本学はまさしく、その禅・仏教の大学という点で独自性を持つのである。

2 建学の理念

本学の建学の理念は、わが国の曹洞宗の祖であり

永平寺の開山である道元の禅の思想に由来している。

本学の「寄附行為」には、建学の理念として「仏教の教義並びに曹洞宗立宗の精神に則り、学校教育を行うことを目的とする」とある。この理念は、長年、「行学一如」という言葉で表現され、それと併せて、実践徳目として「信誠敬愛」が説かれてきた。

道元の禅は、坐禅修行を積み重ねて悟りに至るというものではない。道元の最も代表的な言葉に「修証一等」（しゅしょういつとう）。「修証一如」とも。

『弁道話』がある。坐禅修行を悟るための手段とせず、修（坐禅修行）と証（悟り）は一体であり、坐禅修行が悟りそのものであるとする。つまり、坐禅修行、すなわち「行」を重要視し、証（悟り）と一等（一如）としたのである。道元が「行」や生活の實際を重んじたことは、典座（てんぞ。禅宗寺院の料理長）の役を特に重視し、中国の禅宗にならない、六知事という高位に就けたことから知られる（『典座教訓』）。

この道元の最も代表的な言葉である「修証一等」の精神を大学の理念としたのが「行学一如」である。「行」を「学」と一体とするまでに高めたのである。

戦後、「行学一如」が建学の理念を表現するものとして頻繁に使用されるようになるのは、衛藤即応（えとうそくおう）総長の時からである。1954（昭和29）年の入学式で、彼は「本学設立の精神を体する行学一如の学風」と述べ、大学新聞には「行学一如」の学風に学べ」の大見出しが掲載されている。一時期、「行学一致」「行学一体」などの言葉で表現されたこともあったが、その意味は変わらない。

大学では「行」とは自己陶冶、自己形成のこと、「学」とは学問研究のことである。そして「行学一如」とは、「自分をより優れた人間に成長させること」と、学問研究に励むことは一つのことである」という意味である。

さらに言えば、「学」は、受動的に受け取るものではなく、積極的な「行」を通し、自分の血肉として獲得するものであるという意であり、要するに「主体的な学び」（アクティブ・ラーニング）の教えである。「主体的な学び」こそが、複雑化する社会現実の真つただ中で、的確に問題を発見し柔軟に解決する力の基盤となり得るものである。この点で、「行学一如」は「学」を通して社会貢献へと連なるのである。

「行学一如」は、仏教の教えと禅の精神が息づく高い倫理観に支えられる。仏教は慈悲の心を教える。

思いやり、慈しみの心である。この慈悲の心も、行動を伴わなければ何にもならない。つまり、「学」も、それと不可分の「行」も倫理的な深さを備えているのである。「行」は、単なる実践を意味しない。今、大学教育には学生に人間力・生活力をも身に付けさせることが求められている。本学の「行」はまさしくこの人間力・生活力へ向けた自己陶冶の面を重視する。ここに、道元の「行」を重んじる「修証一等」の禅の精神が生きている。

本学の法科大学院も、「行学一如」に基づき「理論と実務を架橋する教育」をモットーにし、人間味あふれる「法曹」の養成を目指している。倫理観に貫かれた「人に寄り添う法曹の養成」こそ、法科大学院の発足以来の存在意義である。

それ故、「行学一如」とは、アクティブな「学」を支えに計画を立て（P）、それを「行動」（実践）に移し（D）、さらに「学」によって検証して（C）、それまでの教訓に裏打ちされた「行」（A）へ上昇するというPDCAサイクルと一致するものである。

3 自校史

本学は、2014年度から、全学部共通の1年次全員履修科目として、「新入生セミナー」と題して初年次教育の充実を図った。その中に、図書館や文化歴史博物館の利用指導などと共に自校史教育を盛り込んでいく。本学の歴史には、学生にとっても興味深い出来事やユニークな逸話がある。アンケートを取っているが、「受講により、一層、大学に興味を持てるようになった」という声が寄せられている。

越前（福井県）永平寺を開いた道元から四代目に当たるのが、能登（石川県）の總持寺を開いた瑩山である。その弟子で、總持寺の二代目となったのが峨山である。この峨山は、瑩山が開いた能登門前の總持寺と羽咋の永光寺の住職を兼任していたことがある。その折には、永光寺の朝の勤行が終わってから總持寺の勤行に駆け付けたといわれている。両寺を結ぶ尾根道は、今も「峨山道」として残っている。両寺間は13里、52キロある。總持寺には、始めは非常にゆっくり読み、途中から早いスピードになる読経のやり方が今もあり、毎朝続けられてきた。つま

り、峨山が到着するまではゆっくり読み、到着したとみるや読経のスピードが上がるというのである。実際の頻度はともかく、峨山が両寺間をよく往復したことからのエピソードであろう。52キロは、マラソンより10キロも長い距離である。峨山のエネルギーシユな行動力には驚かされる。

この峨山は25人（そのうちの特に優れた5人を「五哲」という）もの優れた弟子を輩出しており、彼らは村はずれの堂・宮に住むような活動によって全国展開していく。旅から旅の修行行脚の中で得た知識をもとに、小地域の開発や温泉場の再開発、生前に戒名を授ける授戒会、葬祭活動などにより、在地の武士や長者（商人的武士）ばかりでなく、農民・職人などの民衆にまで受容されていき、彼らが広げた曹洞宗は現在でも1万4000の寺院を擁するわが国最大の宗派となっている。この全国展開の中で、南武蔵・相模に力を持った太田道灌にも受容され、彼が本学の前身の誕生の場となる吉祥寺を開くことになるのである。

駒澤大学は、わが国はもとより世界的にも、最も古い歴史と豊かな伝統を持つ大学の一つである。本

学は、江戸城を造り、江戸東京の祖として知られる太田道灌が、城の近くに前述のとおり吉祥寺を建てたことに由来している。1457（長禄元）年、58年前のことである。それから135年後、徳川家康が江戸城に入って間もない1592（文禄元）年、その吉祥寺の中に本学の前身の学林（のちの旃檀林）ができる。約420年前のことである。

江戸初期の様子を伝える『江戸図屏風（国立歴史民俗博物館蔵）』には、吉祥寺は江戸城の堀の向こう側に描かれている。堀の上には、人が渡る普通の橋のほかに、神田上水の水を江戸城に通す橋、つまり文字通りの水道橋（現在の水道橋）が掛かり、その袂（たもと）に吉祥寺が描かれており、吉祥寺の上には水戸屋敷が見え、下にはお茶の水の井戸が見える。

1657（明暦3）年、江戸の大半と江戸城天守閣を焼き尽くした明暦の大火（振袖火事）により、吉祥寺と共に学林は駒込へ移り、門前の住民は五日市街道を開拓し、もと居た場所の寺の名をとって吉祥寺村と名付けたとされている。今の吉祥寺の街である。358年前のことであった。なお、以降、天守閣は消失したままで再建されず、現在も皇居には

石垣が残るのみである（皇居天守石垣）。

明治期に入り、1875（明治8）年、曹洞宗は愛宕青松寺獅子窟に曹洞宗専門学校を作ったが、狭隘であったので翌年に駒込の吉祥寺施檀林に移転した。そして、1882（明治15）年、麻布北日が窪、今の六本木ヒルズ・テレビ朝日のあたりに近代的な大学として出発して133年、そこから31年後の1913（大正2）年、駒沢の地に移転してきて102年が経過した。当時の駒沢には、東京唯一の駒沢ゴルフ場があるだけであったという。

駒澤大学で一番古い建物は、現在の禅文化歴史博物館（旧図書館）である。1928（昭和3）年の建設で、現在は東京都歴史的建造物となっており、設計者は菅原栄蔵という人物である。彼が設計した建築物には、レンガ造りのビヤホール、銀座ライオンがある。さらに、深沢キャンパスの洋館は、茶の湯や禅と関係が深い数寄屋造りの要素を取り入れた設計で知られる吉田五十八の設計で、TVドラマや映画などで首相官邸などに利用され、ロケ地としても知られている。

また、最近、学生たちに禅の大学らしさをより一

層感してもらうために、枯山水の石庭や金閣寺垣、建仁寺垣の竹垣を施した。このように、伝統と歴史に関するエピソードにあふれる駒澤大学である。今後とも学生に自校の歴史に興味を抱かせ、学習意欲の向上に繋げたいと思っている。

4 おわりに——グローバル化の中で——

グローバル社会での共通語は英語である。英語教育を中心とするコミュニケーション能力を身に付けた学生の養成は必須であり、外国人留学生をさらに受け入れ、本学学生の留学への道をより一層充実させ、交流の環境を整える必要もある。その際、禅・仏教の教育を受け、坐禅を体験し、自己を見つめ、禅文化や日本文化の知識を持った学生をグローバル社会に送り出すという本学ならではの独自性を大いに展開していきたい。

異文化の人々との出会いの中では、自らの文化を自覚し、互いの独自性を認め合う能力が必要であり、そのためには「主体性」を持った学生の育成が不可欠である。すなわち、「主体性教育」と同時に、他人相互の差異を認め合う「多様性教育」も必要で

ある。

かつてわが国の大学は、本学も含め、さまざまな問題を抱えていた。そのうちの最大の問題が、おそらく「主体性教育」の不十分さであったように思える。学習意欲を持った「主体的」な学生に対しては、熱意のこもった丁寧な教育が確かに行われていた。

そうでなければ、この資源の乏しい「教育立国」が、ここまで世界的に発展することはあり得なかったはずである。しかし、意欲のない学生に対する教育する側の働きかけは、きわめて弱かった。「主体性を備えた学生に対する教育」は行われたが、「主体性を育む教育」は十分行われてこなかったのである。意欲のない学生は、「主体性尊重」の美名のもと、いわば放置されてきた。

大学生が一握りのエリートであり、誰もが「主体性」を身に付けていた時代には、それが大きな問題にはならなかったが、その後、大学生の大衆化が進むとともに、主体性を持たない学生の増大が起こり、彼らに対する「主体性を育む教育」の必要性が高まったにもかかわらず、わが国の大学はその課題に正面から取り組むことに後れを取った。今、その遅れを

一刻も早く取り戻さなければならない。

単に主体性教育とはいっても、学生の知性を活性化する環境を整えることはできるが、その環境の中で自らの知性を働かせるのは学生本人である。この環境整備の努力・工夫が、これまで十分ではなかったのである。

人間の知性は、閉じられ同じことが繰り返される画一的な環境では、弛緩し眠り込む。逆に、開かれた新たな事象が次々と現れる多様性にあふれた環境に置かれれば、驚き目覚めて活発になる。開かれた多様性の中でこそ知性は活性化し、主体的な学習が広がって、改めて自らの独自性が発見され、その独自性を表現する意欲も生まれてくる。

そのような環境づくりへ向かって、「行学一如」の建学の理念を実践し、母校の持つ伝統と独自性を誇りとする、人間力、生活力あふれる学生の育成を行っていききたい。

